



冬、寒くなると、落葉と草枯れで、全体的に茶色い風景が目立つようになります。今まで活動していた昆虫類のほとんどは、越冬のため動かなくなってしまう。

しかし、天気がよく、少しでも気温が上がると、キタテハやムラサキシジミなど、成虫で越冬しているチョウの仲間が、はねを広げて日光浴をしている姿が見られることがあります。

両生類や虫類も、土の中などで越冬するため、姿を見かけることはほとんどありませんが、池などでアズマヒキガエルやニホンアカガエルが産卵する姿を見かけることがあります。

畑地や川の土手では、草が枯れて地面が見えやすくなるため、モグラ塚や坑道、タヌキの溜め糞がよく見えるようになります。

水が抜かれた水田では、ダイサギやコサギなどのサギの仲間や、チドリの仲間で“ミュームュー”とネコのような声で鳴くタゲリが、群れて餌となる昆虫などをついばんでいます。

川の中では、コイやギンブナの姿が見られます。

利根川や印旛沼周辺に広がるヨシ原では、カヤネズミの巣やハタネズミの巣穴などを見ることができます。

印旛沼をはじめとする池沼や、河川、水路などの水面では、ハシビロガモなどのカモの仲間、オオバン、カイツブリといった水鳥が泳いだり、餌を採ったりする姿を見ることができます。

里山では、朽木の中や石の下、土の中、木の皮や葉の裏などに、様々な昆虫類が越冬する姿を見つけることができます。

畑地や民家周辺では、冬鳥であるツグミやジョウビタキなどのヒタキの仲間を見ることができ、上空では餌を探して飛んでいるオオタカの姿も見ることができます。

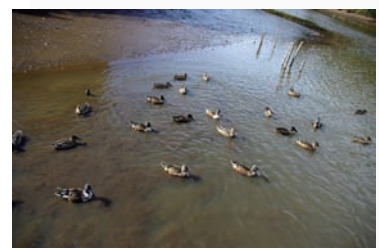
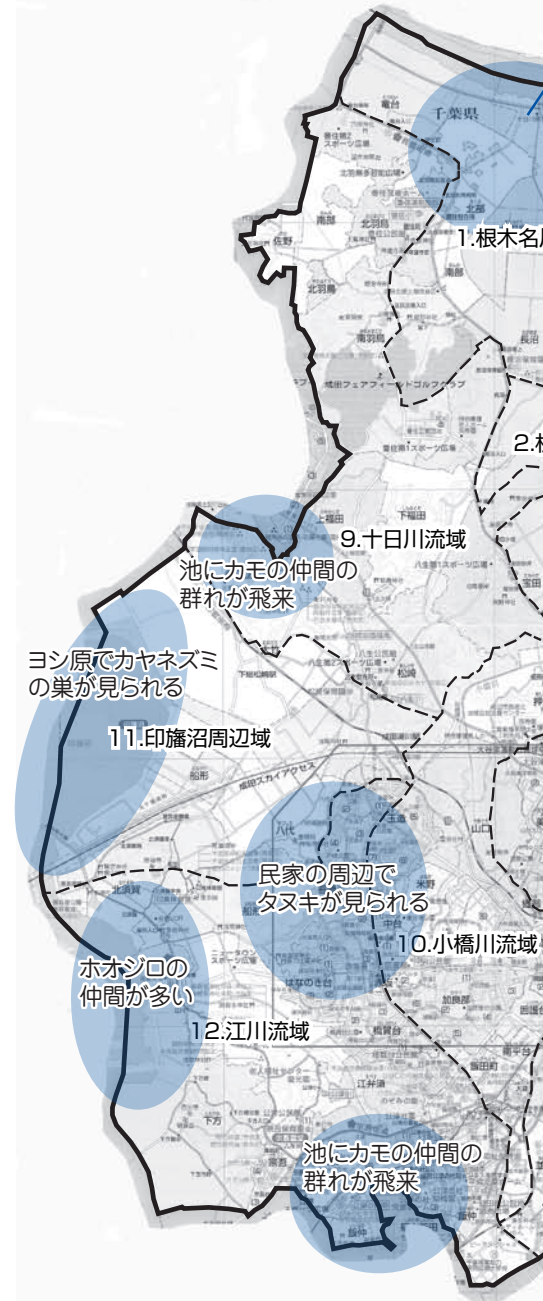
雑木林では、鮮やかな紫色の実が目目を引くムラサキシキブや茶色く丸い実をつけるヘクソカズラ、赤い実をつけるヤブコウジやマンリョウ、3枚の翼のある変わった形の実をつけるヤマノイモなど、多様な木や草の実を見つけることができます。

冬に見られる生き物

鳥類	ダイサギ、コサギ、タゲリ、マガモ、コガモ、スズメ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、オオタカ
魚類	コイ、ギンブナ、モツゴ
ほ乳類	モグラ、カヤネズミ（巣）、タヌキ
両生類	アズマヒキガエル、ニホンアカガエル
は虫類	あまり見られません
昆虫類	キタテハ、ムラサキシジミ
植物	ムラサキシキブ、ヘクソカズラ、ヤブコウジ、マンリョウ、ヤマノイモ



根木名川下流域に広がる水田



坂田ヶ池にやってきたハシビロガモ



ヨシ原に作られたカヤネズミの丸い巣



冬の水田に群れるタゲリ